

「輸送・貯蔵専門調査会」2021年度会員募集について

2021年
一般社団法人 日本原子力産業協会

当協会は、産業基盤強化活動として、「輸送・貯蔵専門調査会」を設置して、専門分野に関する情報の共有化、業界の相互交流の場を提供し、輸送・貯蔵関連産業の育成・発展を図るための業際活動を実施いたしております。具体的には定例会において、講演、パネル討論、施設見学および意見交換を実施いたしております。

つきましては、各種関連業務に従事される方々におかれまして、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

○会員募集要綱

1. 趣旨 別紙-1

※参考資料に活動実績を添付します。

2. 調査会年会費：1名につき(消費税10%を含む)

日本原子力産業協会の会員企業・機関にご所属の方……143,000円
(準会員:22,000円)
上記以外の方……………286,000円
(準会員:44,000円)

同企業・機関にご所属の2人目からは、準会員制度の適用があります。

年会費は、定例会合費、資料代等活動の運営に充当します。

ただし、施設見学会等の特別な費用は除きます。

3. お申込み

以下の5項目について下記問い合わせ先まで、メール等にてご連絡下さい。

- ①(ご登録者)氏名・フリガナ
- ②会員の種類(正会員もしくは準会員)
- ③連絡先(会社(団体)名、所属・役職、住所、電話、FAX、E-mail)
- ④請求書送付先(※上記連絡先と異なる場合にご記入下さい)
- ⑤ご希望の講演テーマ・講演者、施設見学先(※ご意見・ご要望等がございましたら、ご記入下さい)

4. 問い合わせ先

一般社団法人 日本原子力産業協会 地域交流部
〒102-0084 東京都千代田区二番町11-19 興和二番町ビル 5階
TEL:03-6256-9314 FAX:03-6256-9310
E-mail:yschosakai@jaif.or.jp

以上

「輸送・貯蔵専門調査会」について

趣旨:

放射性物質輸送は、原子力開発利用の進展にともない多種・多様化している。特に近年では、使用済燃料の中間貯蔵、MOX 燃料製造、原子炉廃止措置など諸情勢の新展開に対し、所要の機器やシステムの研究開発および技術的対応、規格基準の整備など、適確に対応していくことが求められている。さらにこれらは、国際標準や国際条約の要件を満たすことも必要である。また、燃料、廃棄物の貯蔵とのインターフェイスが重視され、システムとしての技術開発も重要となっている。

「輸送・貯蔵専門調査会」は、原子燃料物質等の輸送および貯蔵に関する研究・技術開発動向、ならびに関連法令や技術基準の国際動向などの現状および将来見通し、課題・対策などに関して、講演、パネル討論、関連施設の見学および意見交換を通じ、専門情報の提供・交流を行い、産業界の発展に資することを目的とする。

【コーディネータ】

有富 正憲 東京工業大学 名誉教授

【副コーディネータ】

伊藤 大一郎 原燃輸送(株) 設計・開発部 規格基準グループ グループマネージャー

【活動内容】

参加会員から希望テーマ(講演・見学先)の提案を受けた上で、それに基づき企画し、年間7回(2021年7月から1年間)程度の定例会合を実施する。テーマは、半期ごとに幹事会にて検討し、会員にお知らせする。

【テーマの例】

- ① IAEA を中心とする国際動向および国内法令、規則等の改定動向
- ② 国内および海外における使用済燃料の中間貯蔵、原子燃料物質の輸送の現状と将来の課題
- ③ 学会、および民間基準策定の動向と課題
- ④ 原子燃料サイクル施設と輸送問題の検討
- ⑤ 廃炉や設備更新に伴う大型放射性廃棄物や大量の放射性廃棄物の処分に関する輸送の課題等
- ⑥ 地震に伴う原発事故の現状と今後の取組み

(参考資料)

2020年度の活動

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 103 回 2020-1	10 月 6 日	① 将来ビジョン「JAEA 2050+」について ② 自動運航船の研究動向 ③ 特定核燃料物質の輸送における個人の信頼性確認制度について	永井 俊尚(JAEA) 佐藤 圭二(海技研) 原子 雅重/岡 光(国交省)
第 104 回 2020-2	12 月 4 日	① 輸送容器の廃止措置の苦労話 ② CSD-C と TN843 型キャスクの概要について ③ 2050 年に CO2 排出量 80%減を達成するエネルギー・電力需給の全体像はどのようなものか?	久保 稔(総合科学研究機構) 箱崎 健一(原燃輸送) 長野 浩司(電中研)
第 105 回 2020-3	2 月 9 日	① 核燃料物質等及び放射性同位元素等の事業所外運搬規則等の改正について ② IAEA 輸送規則の国内法取入れについて(車両運搬規則、危規則、航空法関連) ③ IAEA 輸送規則の国内法取入れに対するパブコメ対応等	田口 浩/五味 邦博 (原子力規制庁) 辻本 恭平/岡 光/藤井 勇輔 (国交省) 山中 庸靖 (輸送・貯蔵を語る会)
第 106 回 2020-4	3 月 9 日	① 日本アイソトープ協会新施設の紹介および RI セキュリティについて ② 廃炉最前線 福島第一原子力発電所の廃炉事業の経験について ③ 輸送貯蔵統合セーフティケースについて	永井 明(RI 協会) 東倉 一郎(東芝 ESS) 広瀬 誠(東工大)
第 107 回 2020-5	5 月 25 日	① RFS の新規制基準適合性審査状況 ② キャスクメーカー各社における技術開発動向及び中間貯蔵キャスク型式認証に係る取り組みについて ③ 輸送貯蔵キャスクの実運用経験について	三枝 利家(RFS) 高橋 淳介(東芝 ESS) 横江 大(トランスニュークリア) 清水 仁(日立 GE) 濱田 健太(日立造船) 岸本 純一(三菱重工) 清水 仁(日立 GE)

2019年度の活動

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 98 回 2019-1	7 月 30 日	① 目指すべきコミュニケーションのあり方 －信頼関係を得るための理解活動とは？－ ② 世界の原発輸出動向 ③ 輸送容器保守技術力の維持・向上に向けた取り組み －NFT型輸送容器保守教育訓練用模擬体を活用した教育訓練の実施－	鈴木 國弘(量研機構) 小林 雅治(JAIF) 山西 凌平(原燃輸送)
第 99 回 2019-2	9 月 24 日	① RI法改正とその対応(RIセキュリティの概要、放射線施設・運搬における要件) ② IAEA使用済燃料管理に関する国際会議(2019年6月) ③ シップリサイクル及び危険物検査業務について	鈴木 健二(RI協会) 田尾 陽(日立造船) 藤井 俊一郎/塚 文彦(日本海事検定協会)
第 100 回 2019-3	10 月 17 ～ 18 日	見学会 (株)日本製鋼所・室蘭製作所/輸送船(六栄丸)	室蘭製作所/六栄丸 概要説明と見学
第 101 回 2019-4	12 月 10 日	PATRAM2019(ニューオーリンズ)特集 ① Road to PATRAM2019 ② 会議全体概要/ Plenary/Panel/規則関連 ③ 材料関連 ④ キャスク設計関連 ⑤ キャスク解析関連 ⑥ 輸送実務関連/青木賞、展示等	伊藤 大一郎(原燃輸送) 広瀬 誠(東工大) 山崎 俊明(日軽金アクト) 溝渕 博紀(オー・シー・エル) 木下 国治(原燃輸送) 伊藤 大一郎(原燃輸送)
第 102 回 2019-5	2 月 4 日	① 船舶による危険物輸送の安全規制制度 百五十年の歴史 ② 使用済燃料貯蔵に係る動向セミナー (2020年1月)開催報告 ③ ドイツにおける使用済核燃料貯蔵の動向	谷 弘(元運輸省) 平尾 好弘(海技研) 石川 智之(伊藤忠テクノソリューションズ)

2018年度の活動

(敬称略)

No.	開催日	テーマ	講演者
第 91 回 2018-1	7 月 31 日	① 新組織(原子力エネルギー協議会)の設立と取組みについて ② 近畿大学研究炉の再稼働について ③ 米国の使用済み燃料貯蔵の現状	示野 哲男(ATENA) 芳原 新也(近畿大学) 浅野 良二(輸送・貯蔵を語る会)
第 92 回 2018-2	9 月 11 日	① 第 5 次エネルギー基本計画について ② 日本の放射性物質安全規制状況の IAEA への報告と IRRS における放射性物質輸送規制の評価について ③ 放射性物質輸送に関する国際会議(RAMTransport2018)について	小泉 真認(経産省) 羽田 慎之介(原子力規制庁) 亘 真澄(電中研)
第 93 回 2018-3	10 月 4~5 日	見学会 日本原燃(株) 六ヶ所原燃サイクル施設	六ヶ所原燃サイクル施設 概要説明と見学
第 94 回 2018-4	12 月 4 日	① 核セキュリティの検討状況 ② 輸送物海没時の海洋放出評価の高度化 ③ 新検査制度、福島廃炉を取り巻く環境への対応の提案	飯田 透(JAEA) 津 ^{つむね} 皆 大輔(電中研) 鈴木 浩(三菱総研)
第 95 回 2018-5	2 月 19 日	① 使用済燃料と高レベル放射性廃棄物の管理 ② 輸送規制の黎明期の状況 ③ IAEA輸送規則 SSR-6 Rev.1の改定内容について	澤田 佳代(名古屋大学) 青木 照美(元科学技術庁) 広瀬 誠(東工大)
第 96 回 2018-6	3 月 12 日	① 原子力災害といのちの保全-哲学の視点から- ② バックエンドロードマップについて ③ 放射性物質輸送関連 ISO 規格の改定動向-UF6 シリンダ、トランニオンなど-	一ノ瀬 正樹(東京大学) 門馬 利行(JAEA) 松田 昭博(筑波大学)ほか
第 97 回 2018-7	5 月 21 日	① 使用済燃料貯蔵用兼用キャスクに係る規制基準の動向について ② 米国 使用済燃料集中貯蔵施設計画の現状 ③ LLW運搬船青栄丸後継船建造	森光 ^{ともゆき} 智千(原子力規制庁) 亘 真澄(電中研) 影山 典広(トランスニュークリア) 高月 英毅(原燃輸送)